

転出者アンケート調査結果の概要

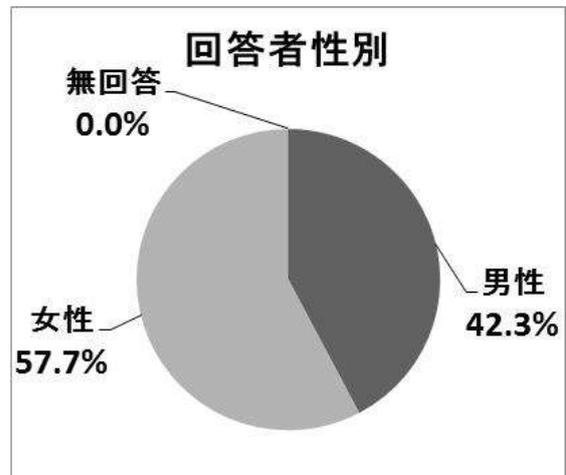
【2】転出者アンケート調査

○回答者の属性

問1 性別

回答者 317 人を、男女別にみると、男性は 42.3%、女性は 57.7%、無回答は 0.0%であった。

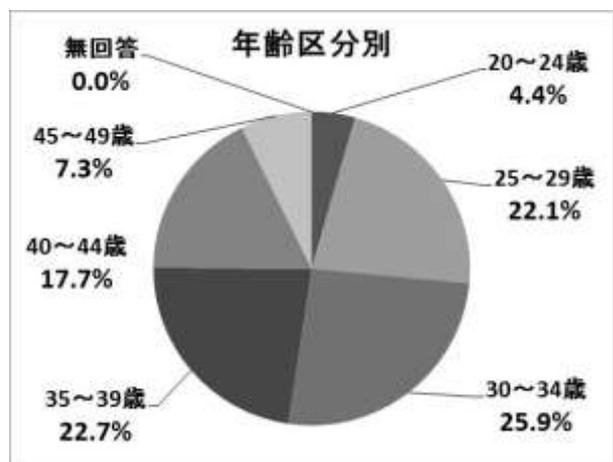
設問	選択肢	総数	割合
性別	男性	134	42.3%
	女性	183	57.7%
	無回答	0	0.0%
	計	317	100.0%



問2 年齢

回答者を年齢区分別でみると、「20～24歳」は4.4%、「25～29歳」は22.1%、「30～34歳」は25.9%、「35～39歳」は22.7%、「40～44歳」は17.7%、「45～49歳」は7.3%であり、20代は26.5%、30代は48.6%、40代は24.9%という結果であった。

設問	選択肢	総数	割合
年代	20～24歳	14	4.4%
	25～29歳	70	22.1%
	30～34歳	82	25.9%
	35～39歳	72	22.7%
	40～44歳	56	17.7%
	45～49歳	23	7.3%
	無回答	0	0.0%
	計	317	100.0%

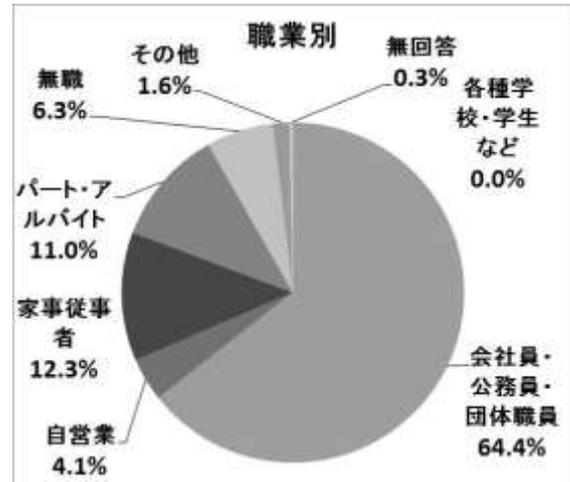


【2】転出者アンケート調査

問3 職業等

職業別にみると、「会社員・公務員・団体職員」は64.4%で最も高い割合となっている。

設問	選択肢	総数	割合
職業	各種学校・学生など	0	0.0%
	会社員・公務員・団体職員	204	64.4%
	自営業	13	4.1%
	家事従事者	39	12.3%
	パート・アルバイト	35	11.0%
	無職	20	6.3%
	その他(記述)	5	1.6%
	無回答	1	0.3%
	計	317	100.0%



問4 同居の子ども的人数

同居の子ども的人数別にみると、「1人」と答えた方は26.2%、以下「2人」11.4%、「3人」3.2%、「4人」0.6%、「5人以上」0.3%、「子どもはいない」と答えた方は57.7%、無回答は0.6%であった。同居の子どもがいる方は合わせて41.6%であった。

設問	子ども的人数	総数	割合
同居の子ども的人数	1人	83	26.2%
	2人	36	11.4%
	3人	10	3.2%
	4人	2	0.6%
	5人以上	1	0.3%
	子どもはいない	183	57.7%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%

設問	子どもの有無	総数	割合
同居の子どもの有無	子どもがいる(1人~5人)	132	41.6%
	子どもはいない	183	57.7%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%

【2】 転出者アンケート調査

問5 子どもの年代別 (※複数回答可)

問4で子どもがいると答えた方のうち、子どもを年代別にみると、「就学前」は78.0%、「小学生」は26.5%、「中学生」は6.1%であった。調査対象の年代を20から49歳としたことから、就学前の子どもの割合が高い結果となったと考えられる。

設問	選択肢	総数	割合
同居の子ども (※複数回答)子ども の人数回答者が母数	就学前	103	78.0%
	小学生	35	26.5%
	中学生	8	6.1%
	高校生	6	4.5%
	専門学校・短大・大学・大学院など	3	2.3%
	既に学校教育終了	2	1.5%
	その他	0	0.0%
	無回答	1	0.8%
	計(回答総数)	158	-
	回答者数(子どもがいる方)	132	

問6 転出前の平塚市の居住地区

海岸地区が20.2%で最も高く、平塚地区17.7%、大野地区17.0%、旭地区12.9%、神田地区9.5%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方の地区別割合は、海岸地区で23.5%と多く、平塚地区22.7%、大野地区15.2%と続いております、「子どもはいない」方の地区別割合は、大野地区が18.6%で最も高く、海岸地区18.0%、旭地区15.3%と続いております。

設問	選択肢	総数	割合
転出前居住地区	海岸	64	20.2%
	平塚	56	17.7%
	大野	54	17.0%
	豊田	10	3.2%
	城島	5	1.6%
	岡崎	12	3.8%
	金田	18	5.7%
	神田	30	9.5%
	金目	17	5.4%
	土沢	8	2.5%
	旭	41	12.9%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%

子ども有無別
子ども有(N=132)
子ども無(N=183)



【2】 転出者アンケート調査

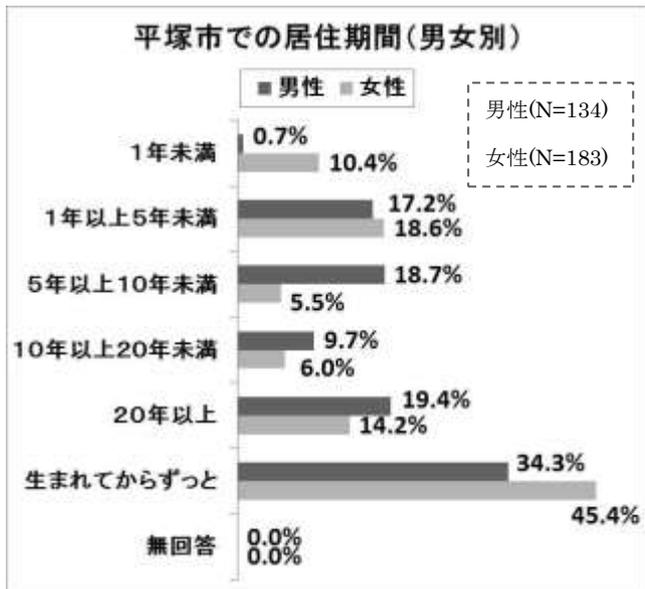
問7 転出までの平塚市での居住期間

「生まれてからずっと」が40.7%で最も高く、次いで、「1年以上5年未満」が18.0%、「20年以上」が16.4%、「5年以上10年未満」が11.0%で続いている。また、10年以上居住している方が全体の64.6%、5年未満で転出となった方は全体の24.3%であった。

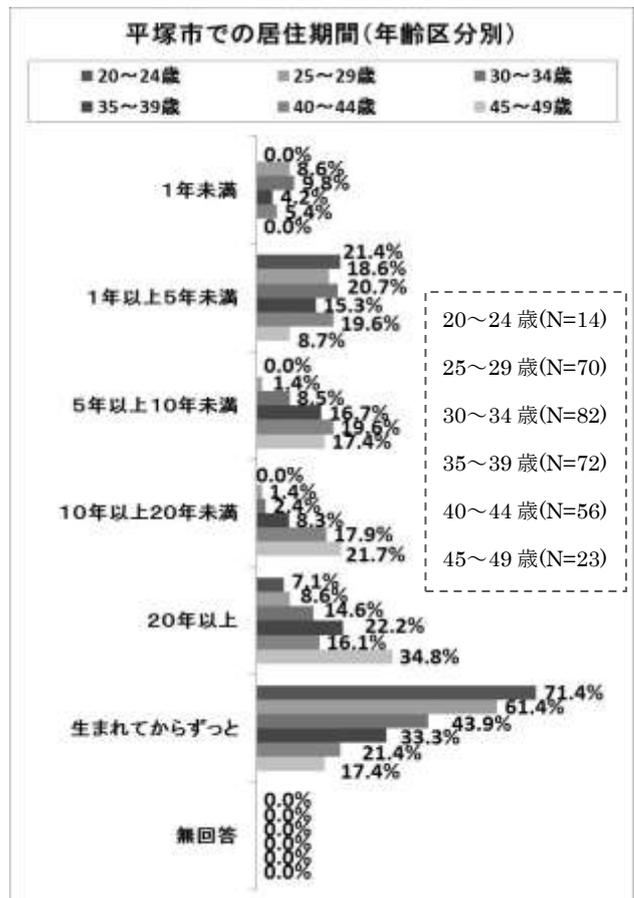
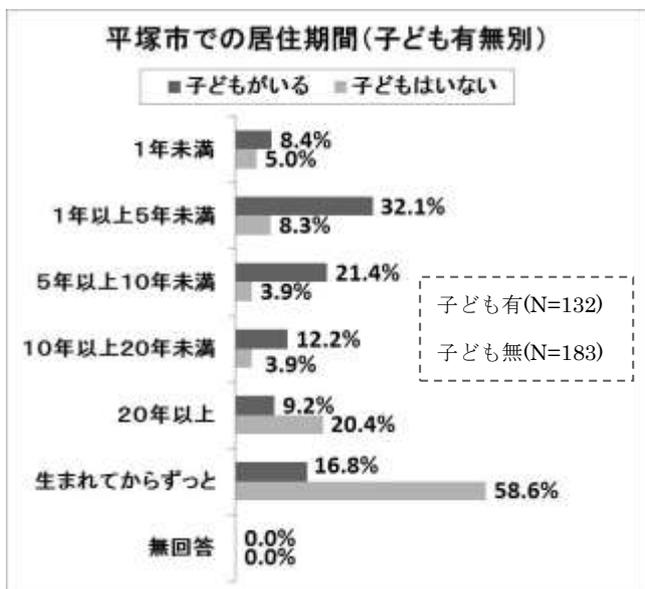
男女別にみると、女性で「生まれてからずっと」と答えた方は45.4%で、男性34.3%よりも高い割合であった。

年齢区別にみると、年齢が進むにしたがって、「生まれてからずっと」の割合が低下しており、「20～24歳」では71.4%と高い割合を示すが、「45～49歳」では17.4%となっている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、10年未満の居住が61.4%で、「生まれてからずっと」、「20年以上」をあわせた平塚市に長く居住した方の割合は25.7%であった。「子どもはいない」方は、10年未満の居住が16.9%であり、「生まれてからずっと」、「20年以上」をあわせた平塚市に長く居住した人の割合は79.2%と高い割合を示している。



設問	選択肢	総数	割合
居住年数	1年未満	20	6.3%
	1年以上5年未満	57	18.0%
	5年以上10年未満	35	11.0%
	10年以上20年未満	24	7.6%
	20年以上	52	16.4%
	生まれてからずっと	129	40.7%
	無回答	0	0.0%
計		317	100.0%

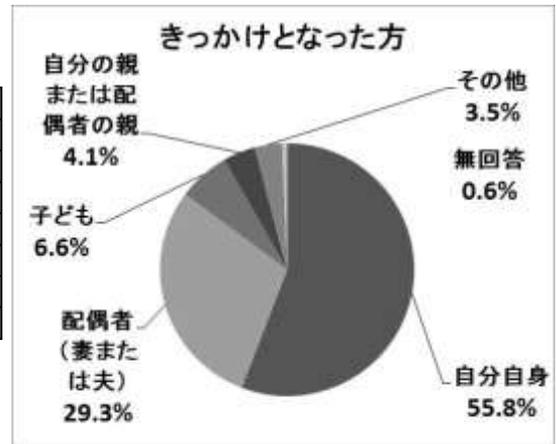


【2】転出者アンケート調査

問8 転出するきっかけとなった方

他市区町村へ転出するきっかけとなった方について、「自分自身」が最も高く 55.8%、次いで配偶者が 29.3%であった。

	選択肢	全体	割合
主なきっかけの方	自分自身	177	55.8%
	配偶者(妻または夫)	93	29.3%
	子ども	21	6.6%
	自分の親または配偶者の親	13	4.1%
	その他	11	3.5%
	無回答	2	0.6%
	計	317	100.0%



問9 転出することになったきっかけ（※複数回答可）

転出することになったきっかけは、「結婚」が最も高く 38.2%、次いで「仕事上の都合（就職、転勤など）」が 29.0%、「通勤・通学の利便性を高めるため」が 24.6%、「住宅の都合（購入、借り換えなど）」が 20.8%で続いている。

男女別にみると、男性は「結婚」が最も高く 32.1%、次いで「仕事上の都合」 29.1%、「住宅の都合」 27.6%、「通勤通学の利便性を高めるため」 26.1%と続いている。

女性も、「結婚」が最も高く 42.6%、次いで「仕事上の都合」 29.0%、「通勤・通学の利便性を高めるため」 23.5%、「住宅の都合」 15.8%となっている。

年齢区分別にみると、「20～24歳」では「仕事上の都合」が最も高く 71.4%。

「25～29歳」では「結婚」が最も高く 48.6%、次いで「仕事上の都合」が 34.3%。

「30～34歳」では「結婚」が最も高く 43.9%、次いで「仕事上の都合」、「通勤・通学の利便性」が 24.4%で並んでいる。

「35～39歳」では「結婚」が最も高く 48.6%、次いで「仕事上の都合」が 27.8%。

「40～44歳」では「住宅の都合」が最も高く 32.1%、次いで「通勤・通学の利便性」 26.8%。

「45～49歳」では、「通勤・通学の利便性」が最も高く 26.1%、次いで「住宅の都合」 21.7%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「住宅の都合」が 35.6%で最も高く、「子育て環境を良くすること」 25.8%、「仕事上の都合」 25.0%、「通勤・通学の利便性」 15.9%と続く。

「子どもはいない」方は、「結婚」 54.6%で最も高く、「仕事上の都合」 32.2%、「通勤・通学の利便性」 31.1%と続く。

【2】転出者アンケート調査

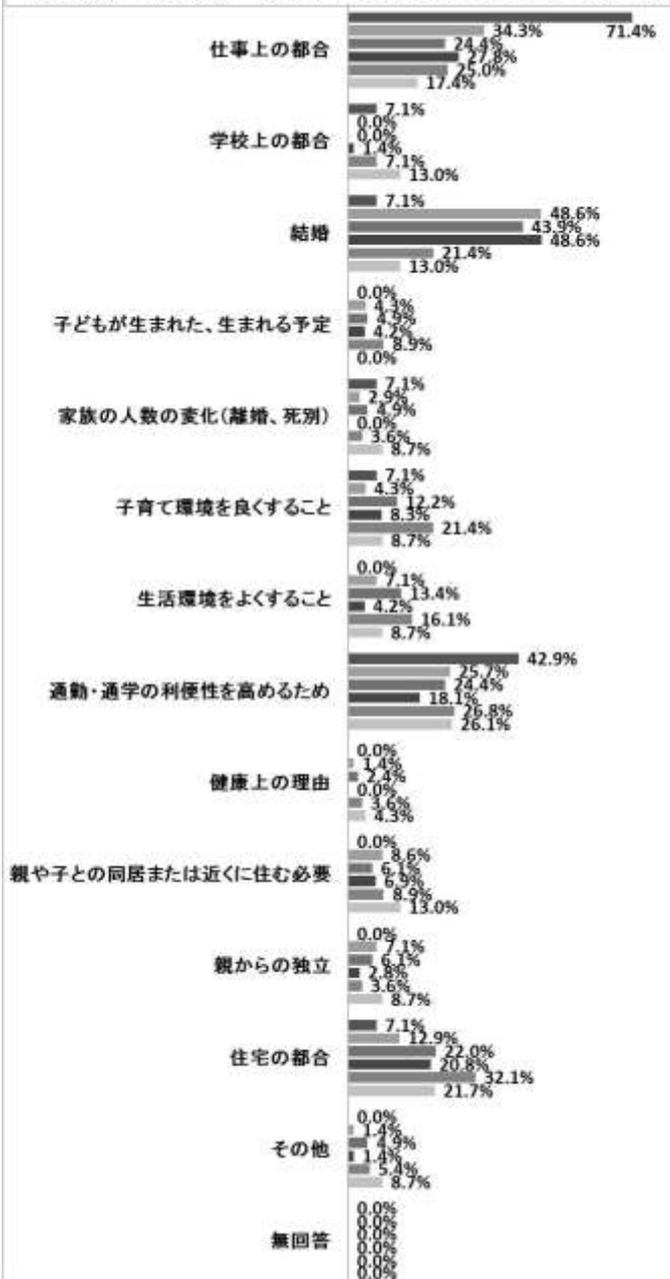
	選択肢	総数	割合
転出することになったきっかけ	仕事上の都合(就職、転勤など)	92	29.0%
	学校上の都合	9	2.8%
	結婚	121	38.2%
	子どもが生まれた、生まれる予定	15	4.7%
	家族の人数の変化(離婚、死別)	11	3.5%
	子育て環境を良くすること	34	10.7%
	生活環境を良くすること	30	9.5%
	通勤・通学の利便性を高めるため	78	24.6%
	健康上の理由	6	1.9%
	親や子との同居または近くに住む必要	24	7.6%
	親からの独立	16	5.0%
	住宅の都合(購入、借り換えなど)	66	20.8%
	その他	11	3.5%
	無回答	0	0.0%
	計(回答総数)	513	-
	回答者数	317	-

転出することになったきっかけ(全体)



転出することになったきっかけ(年齢区分別)

■ 20～24歳 ■ 25～29歳 ■ 30～34歳 ■ 35～39歳 ■ 40～44歳 ■ 45～49歳



転出することになったきっかけ(男女別)

■ 男性 ■ 女性



転出することになったきっかけ(子ども有無別)

■ 子どもがいる ■ 子どもはいない



男性(N=134)

子ども有(N=132)

女性(N=183)

子ども無(N=183)

20～24歳(N=14) 25～29歳(N=70) 30～34歳(N=82)

35～39歳(N=72) 40～44歳(N=56) 45～49歳(N=23)

【2】 転出者アンケート調査

問 1 0 平塚市内での居住の検討状況

「平塚市も検討したが、他市町村に決めた」は 20.2%、「平塚市は検討しなかった」は 52.4%、「現在の住所へ住むことが決まっていた（社宅・家族の持ち家など）」は 26.8%であった。全体の約 20%は平塚市内での居住も検討したが転出を選択した方、残りの約 80%は転出にあたり平塚市内での居住について検討しなかったことがわかる。

	平塚市内の検討状況	単純集計				性別			
		総数	男性	女性	無回答	割合	男性	女性	無回答
平塚市内の検討状況	平塚市も検討したが、他市町村に決めた	64	37	27	0	20.2%	27.6%	14.8%	0.0%
	平塚市は検討しなかった	166	71	95	0	52.4%	53.0%	51.9%	0.0%
	現在の住所へ住むことが決まっていた	85	25	60	0	26.8%	18.7%	32.8%	0.0%
	無回答	2	1	1	0	0.6%	0.7%	0.5%	0.0%
	計	317	134	183	0	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

問 1 1 転出先の検討にあたり重視した条件（※複数回答可）

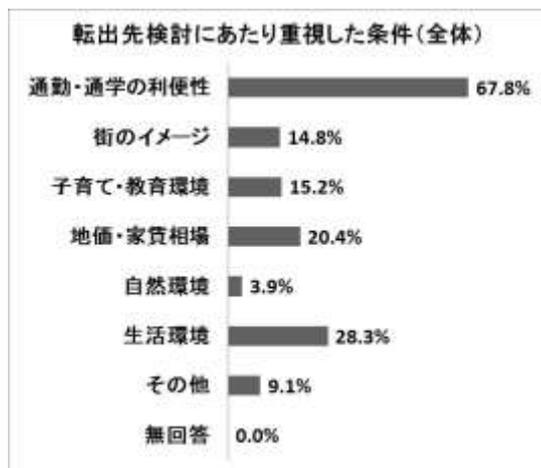
（N＝230 問 1 0 で「平塚市も検討したが、他市町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

全体でみると、「通勤・通学の利便性」が 67.8%で最も高く、次いで「生活環境」が 28.3%、「地価・家賃相場」が 20.4%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は「通勤・通学の利便性」が 47.8%で最も高く、次いで「子育て・教育環境」37.8%、「生活環境」35.6%も高い割合を示している。

「子どもはいない」方は、「通勤・通学の利便性」が 80.6%で非常に高く、次に「生活環境」23.7%と続いている。

重視した条件	総数	割合
通勤・通学の利便性	156	67.8%
街のイメージ	34	14.8%
子育て・教育環境	35	15.2%
地価・家賃相場	47	20.4%
自然環境	9	3.9%
生活環境	65	28.3%
その他	21	9.1%
無回答	0	0.0%
計(回答総数)	367	159.6%
回答者数	230	



子ども有無別
子ども有(N=90) 子ども無(N=139)



【2】転出者アンケート調査

問12 転出先の市区町村以外で検討した市区町村（※複数回答可）

（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた（N=64人）」方の転出先以外で検討した市区町村を割合で見ると、藤沢市が最も高く12.5%、次いで茅ヶ崎市が10.9%、川崎市、秦野市が6.3%、横浜市、伊勢原市、海老名市、寒川町、二宮町が4.7%と続いている。

「平塚市は検討しなかった（N=166人）」方の転出先以外で検討した市区町村を割合で見ると、横浜市が最も高く24.1%、次いで川崎市、藤沢市がそれぞれ6.0%、厚木市3.6%、茅ヶ崎市3.0%、東京都品川区、東京都世田谷区、東京都渋谷区がそれぞれ1.8%と続いている。

・「平塚市も検討した」方の検討場所（市区町村別）（N=64）

順位	市区町村	総数	割合
1	藤沢市	8	12.5%
2	茅ヶ崎市	7	10.9%
3	川崎市	4	6.3%
3	秦野市	4	6.3%
5	横浜市	3	4.7%
5	伊勢原市	3	4.7%
5	海老名市	3	4.7%
5	寒川町	3	4.7%
5	二宮町	3	4.7%
5	その他	3	4.7%
11	鎌倉市	2	3.1%
11	厚木市	2	3.1%
13	座間市	1	1.6%
13	大磯町	1	1.6%
13	台東区	1	1.6%
13	墨田区	1	1.6%
13	目黒区	1	1.6%
13	大田区	1	1.6%
13	町田市	1	1.6%

・「平塚市は検討しなかった」方の検討場所（市区町村別）（N=166）

順位	市区町村	総数	割合	順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	40	24.1%	17	鎌倉市	1	0.6%
2	川崎市	10	6.0%	17	小田原市	1	0.6%
2	藤沢市	10	6.0%	17	逗子市	1	0.6%
4	厚木市	6	3.6%	17	秦野市	1	0.6%
5	茅ヶ崎市	5	3.0%	17	座間市	1	0.6%
6	品川区	3	1.8%	17	二宮町	1	0.6%
6	世田谷区	3	1.8%	17	中井町	1	0.6%
6	渋谷区	3	1.8%	17	箱根町	1	0.6%
9	伊勢原市	2	1.2%	17	愛川町	1	0.6%
9	海老名市	2	1.2%	17	千代田区	1	0.6%
9	大磯町	2	1.2%	17	文京区	1	0.6%
9	新宿区	2	1.2%	17	中野区	1	0.6%
9	台東区	2	1.2%	17	杉並区	1	0.6%
9	江東区	2	1.2%	17	足立区	1	0.6%
9	大田区	2	1.2%	17	武蔵野市	1	0.6%
9	町田市	2	1.2%	17	三鷹市	1	0.6%
17	相模原市	1	0.6%	17	その他	1	0.6%

【2】転出者アンケート調査

問13 転出先の地域を探したときの情報源（※複数回答可）

（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

「住宅情報・不動産情報ホームページ」が最も高く58.3%、次いで「不動産業者」が34.8%、「家族・親族・知人」が26.5%と続いている。男女別、年齢区分別、子どもの有無別でも同様の傾向であった。

転出先の情報源	総数	割合
市区町村のホームページ	23	10.0%
住宅情報・不動産情報ホームページ	134	58.3%
その他インターネット情報	19	8.3%
住宅情報誌	15	6.5%
不動産業者	80	34.8%
ハウスメーカー・建設会社	32	13.9%
新聞・広告	4	1.7%
電車バス等の車内広告	0	0.0%
家族・親族・知人	61	26.5%
その他	12	5.2%
無回答	4	1.7%
計(回答総数)	384	167.0%
回答者数	230	



問14 転出先の市区町村（N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答）

神奈川県内への転出が全体の79.6%、東京都内への転出は全体の17.0%であった。市区町村別でみると、横浜市が22.2%で最も高く、以下、藤沢市、伊勢原市が7.0%、川崎市6.5%、小田原市、茅ヶ崎市が5.7%、秦野市4.8%と続いている。転出先を回答した方の約70%は相模川以東の東京方面への転出となっている。

転出後の住所地	総数	割合
神奈川県	183	79.6%
東京都	39	17.0%
無回答	6	2.6%
その他	2	0.9%
計(回答数)	230	

順位	市区町村	人数	割合	順位	市区町村	人数	割合
1	横浜市	51	22.2%	20	愛川町	2	0.9%
2	藤沢市	16	7.0%	20	台東区	2	0.9%
2	伊勢原市	16	7.0%	20	目黒区	2	0.9%
4	川崎市	15	6.5%	20	杉並区	2	0.9%
5	小田原市	13	5.7%	20	板橋区	2	0.9%
5	茅ヶ崎市	13	5.7%	20	その他	2	0.9%
7	秦野市	11	4.8%	28	綾瀬市	1	0.4%
8	大田区	9	3.9%	28	葉山町	1	0.4%
9	大磯町	7	3.0%	28	中井町	1	0.4%
10	厚木市	6	2.6%	28	松田町	1	0.4%
10	無回答	6	2.6%	28	文京区	1	0.4%
12	鎌倉市	5	2.2%	28	墨田区	1	0.4%
12	海老名市	5	2.2%	28	江東区	1	0.4%
14	相模原市	4	1.7%	28	品川区	1	0.4%
14	寒川町	4	1.7%	28	豊島区	1	0.4%
14	二宮町	4	1.7%	28	北区	1	0.4%
14	新宿区	4	1.7%	28	荒川区	1	0.4%
14	世田谷区	4	1.7%	28	足立区	1	0.4%
19	町田市	3	1.3%	28	江戸川区	1	0.4%
20	大和市	2	0.9%	28	三鷹市	1	0.4%
20	座間市	2	0.9%	28	清瀬市	1	0.4%

【2】転出者アンケート調査

問10で「平塚市も検討したが他市区町村に転出した」方(N=64人)の実際に転出した市区町村は、伊勢原市が12.5%で最も高く、次いで大磯町10.9%、横浜市、茅ヶ崎市、秦野市が並んで9.4%、藤沢市7.8%、寒川町6.3%と続いている。このことから、平塚市も検討して転出した方は、問12でわかるように比較的近隣にある市町を検討し、転出をしていることを示している。

《問10で「平塚市も検討したが他市区町村へ転出した」方(N=64)》

・問12の検討場所(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	藤沢市	8	12.5%
2	茅ヶ崎市	7	10.9%
3	川崎市	4	6.3%
3	秦野市	4	6.3%
5	横浜市	3	4.7%
5	伊勢原市	3	4.7%
5	海老名市	3	4.7%
5	寒川町	3	4.7%
5	二宮町	3	4.7%
5	その他	3	4.7%

・実際の転出先(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	伊勢原市	8	12.5%
2	大磯町	7	10.9%
3	横浜市	6	9.4%
3	茅ヶ崎市	6	9.4%
3	秦野市	6	9.4%
6	藤沢市	5	7.8%
7	寒川町	4	6.3%
8	川崎市	3	4.7%
8	相模原市	3	4.7%
8	小田原市	3	4.7%

問10で「平塚市は検討しなかった」方(N=166人)の実際に転出した市区町村は、横浜市が27.1%で最も高く、川崎市7.2%、藤沢市6.6%、小田原市6.0%、東京都大田区5.4%、伊勢原市4.8%、茅ヶ崎市4.2%、厚木市3.6%と続いている。このことから、「平塚市は検討しなかった」方は、横浜市、川崎市、東京都内など東京方面への転出が多い一方、比較的近隣にある市町も検討し、転出している結果となった。

《問10で「平塚市は検討しなかった」方(N=166)》

・問12の検討場所(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	40	24.1%
2	川崎市	10	6.0%
2	藤沢市	10	6.0%
4	厚木市	6	3.6%
5	茅ヶ崎市	5	3.0%
6	品川区	3	1.8%
6	世田谷区	3	1.8%
6	渋谷区	3	1.8%
9	伊勢原市	2	1.2%
9	海老名市	2	1.2%
9	大磯町	2	1.2%

・実際の転出先(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	45	27.1%
2	川崎市	12	7.2%
3	藤沢市	11	6.6%
4	小田原市	10	6.0%
5	大田区	9	5.4%
6	伊勢原市	8	4.8%
6	無回答	8	4.8%
8	茅ヶ崎市	7	4.2%
9	厚木市	6	3.6%
10	秦野市	5	3.0%

【2】転出者アンケート調査

問15 転出先の市区町村を決めた理由 (N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答) (※複数回答可)

全体では「通勤・通学時間」が68.3%で最も高く、次いで「住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)」が44.3%、「家賃・住宅価格」が43.5%、「買い物の利便性」が37.8%、「家族・親族・知人が(近くに)住んでいる」が31.7%で続いている。

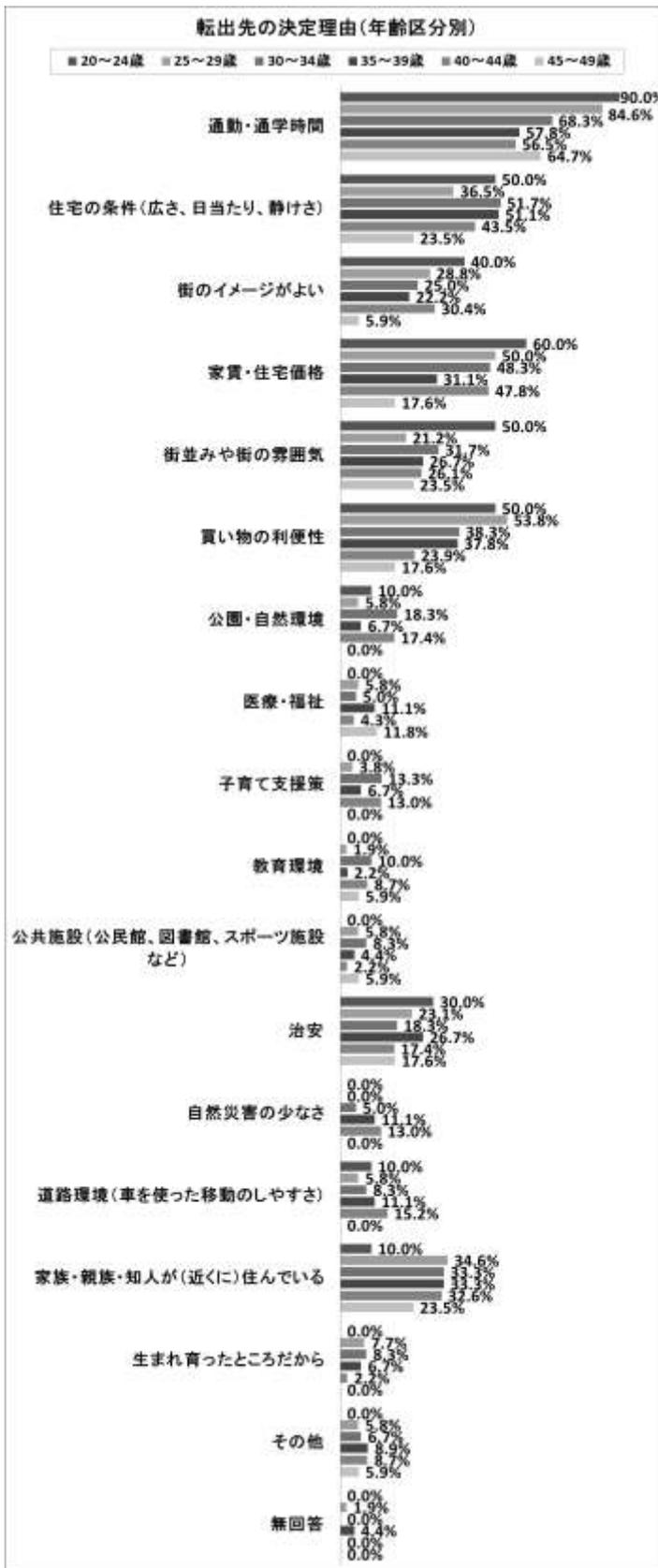
年代別でみると、20代は、「通勤・通学時間」、「家賃・住宅価格」、「買い物の利便性」が他の年代よりも高い割合となった。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「子どもはいない」方に比べ、「家族・親族・知人が(近くに)住んでいる」、「公園・自然環境」、「治安」、「子育て支援策」、「教育環境」が高い割合となっており、一方「通勤・通学時間」、「家賃・住宅価格」、「街並みや街の雰囲気」がやや低い割合となった。

	決定理由	総数	割合
決定理由	通勤・通学時間	157	68.3%
	住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)	102	44.3%
	街のイメージがよい	59	25.7%
	家賃・住宅価格	100	43.5%
	街並みや街の雰囲気	63	27.4%
	買い物の利便性	87	37.8%
	公園・自然環境	26	11.3%
	医療・福祉	15	6.5%
	子育て支援策	19	8.3%
	教育環境	13	5.7%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設など)	12	5.2%
	治安	49	21.3%
	自然災害の少なさ	14	6.1%
	道路環境(車を使った移動のしやすさ)	21	9.1%
	家族・親族・知人が(近くに)住んでいる	73	31.7%
	生まれ育ったところだから	13	5.7%
	その他	16	7.0%
	無回答	3	1.3%
	計(回答総数)	842	366.1%
	回答者数	230	



【2】転出者アンケート調査

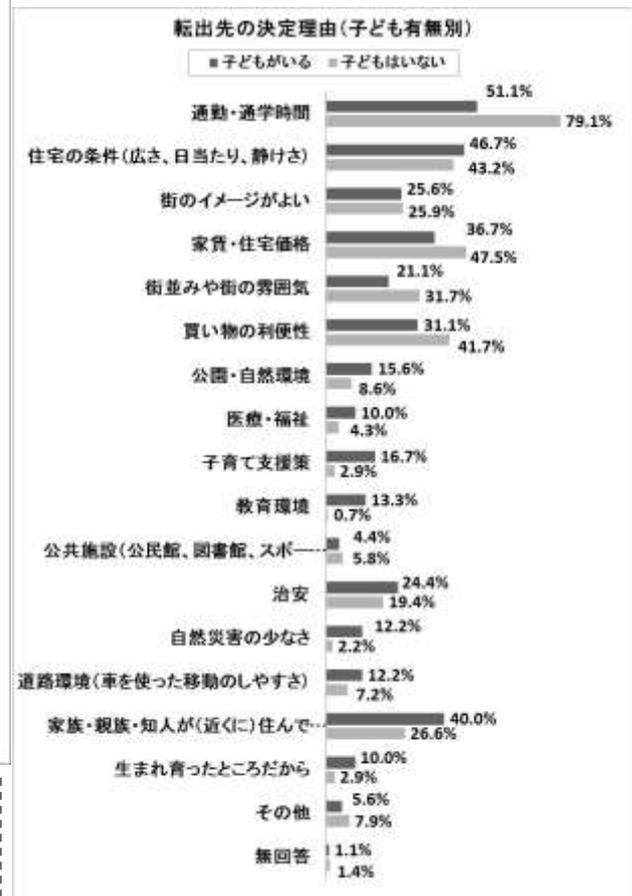


子ども有(N=90)

男性(N=108)

子ども無(N=139)

女性(N=122)



年齢区分別

20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)

35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

【2】転出者アンケート調査

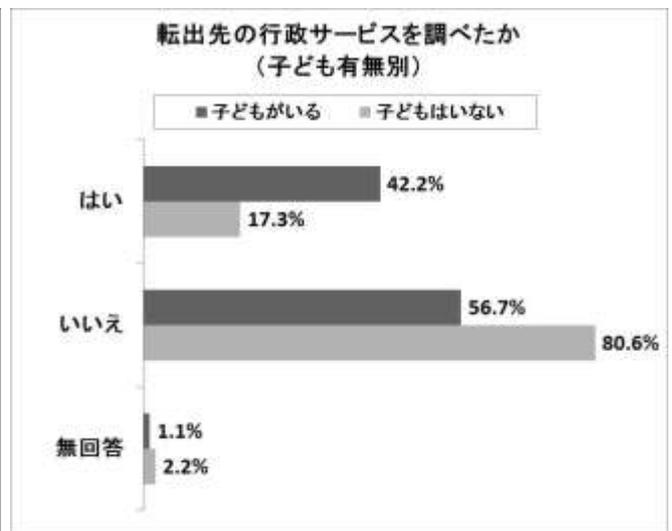
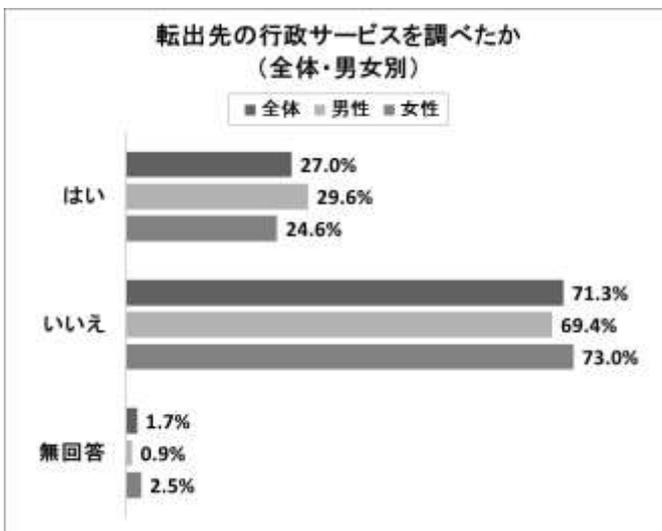
問16 転出先の市区町村を決めるにあたり、転出先の行政サービスを調べたか。

(N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答)

全体では「はい」が27.0%、「いいえ」が71.3%となっている。

年齢区分別でみると、「はい」と答えた方は、「25～29歳」が11.5%と、他の年齢区分に比べ低かった。

子どもの有無別でみると、「はい」と答えた方は、「子どもがいる」方で42.2%、「子どもはいない」方で17.3%であり、「子どもがいる」方のほうが行政サービスを調べる傾向にあることがわかった。また、「子どもがいる」方は、子どもの人数が増えるにつれ、「はい」の割合が高まっている。



20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)
35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

子どもの人数
1人(N=59)、2人(N=25)、3人(N=4)、4人(N=2)

【2】転出者アンケート調査

問17 転出前と現在の住居の種類

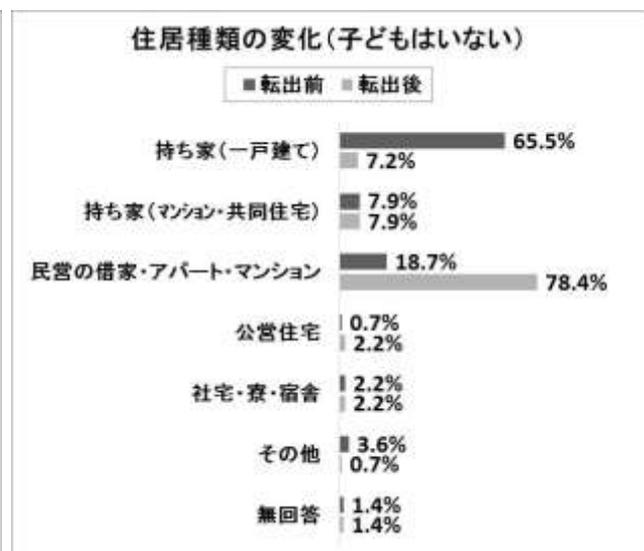
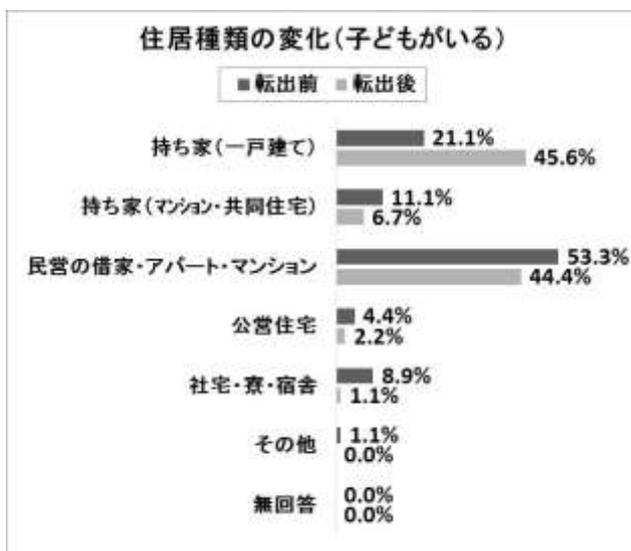
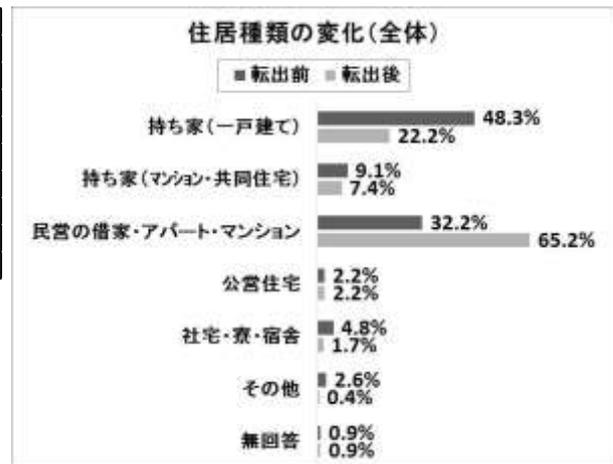
(N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答)

転出前後の住居の割合の変化は、「持ち家（一戸建て）」が転出前 48.3%から転出後 22.2%へ、「持ち家（マンション・共同住宅）」が転出前 9.1%から転出後 7.4%へ、「民営の借家・アパート・マンション」が転出前 32.2%から転出後 65.2%となっており、一戸建てとマンションなどを合わせた持ち家の割合が転出前 57.4%から転出後 29.6%と低下し、賃貸の住まいの割合が高まっている。

年齢区別にみると、「40～44歳」で持ち家の割合が高まっているが、他の年齢区分では、持ち家の割合は低下している。

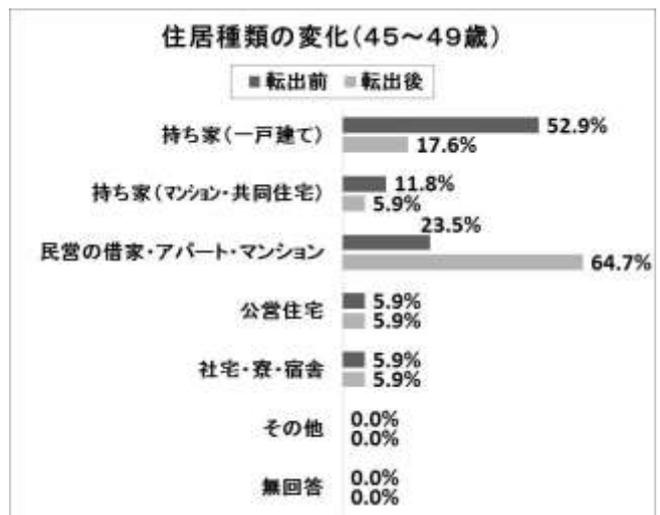
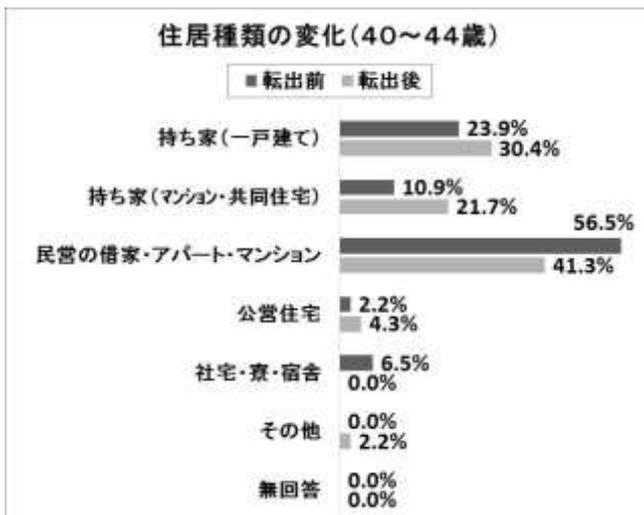
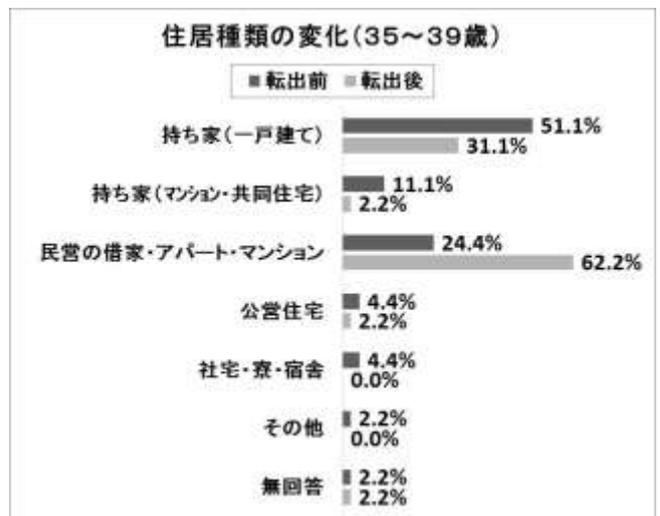
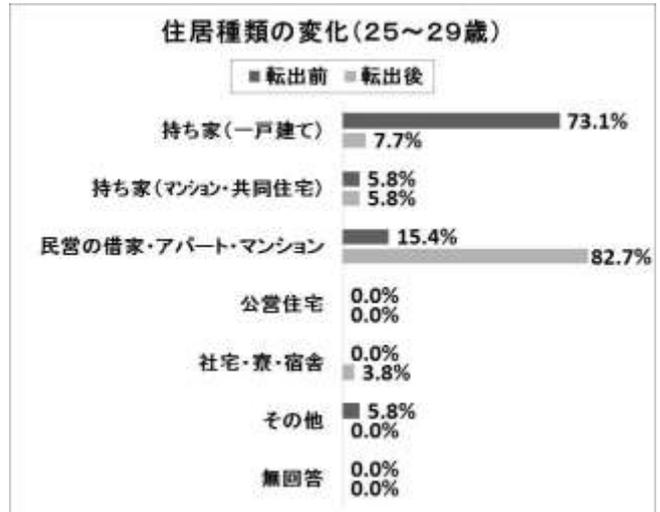
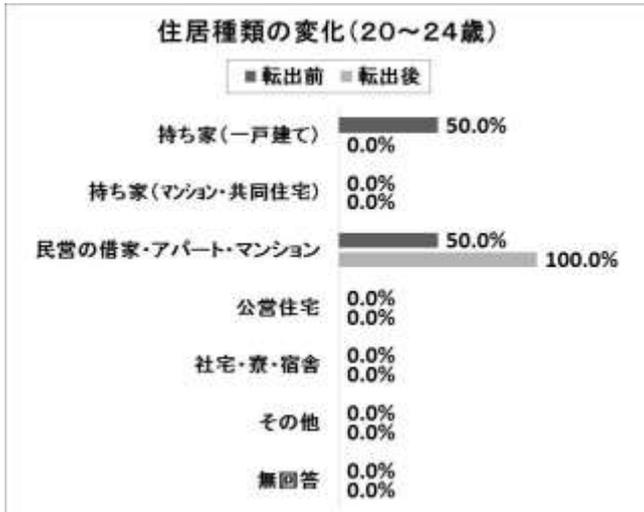
子どもの有無別にみると、「子どもがいる」方は一戸建てとマンションなどを合わせた持ち家の割合が転出前 32.2%から転出後 52.3%と高まっているが、「子どもがいない」方は、持ち家の割合が転出前 73.4%から転出後 15.1%と下がっており、「民営の借家・アパート・マンション」が転出前 18.7%から転出後 78.4%と高まっている。

住居種類	集計		割合	
	転出前	転出後	転出前	転出後
持ち家(一戸建て)	111	51	48.3%	22.2%
持ち家(マンション・共同住宅)	21	17	9.1%	7.4%
民営の借家・アパート・マンション	74	150	32.2%	65.2%
公営住宅	5	5	2.2%	2.2%
社宅・寮・宿舎	11	4	4.8%	1.7%
その他	6	1	2.6%	0.4%
無回答	2	2	0.9%	0.9%
計	230	230	100.0%	100.0%



子ども有(N=90)、子ども無(N=139)

【2】転出者アンケート調査



年齢区分別

20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)

35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

【2】転出者アンケート調査

問18 転出前と現在の世帯構成

(N=230 問10で「平塚市も検討したが、他市区町村に決めた」「平塚市は検討しなかった」方が回答)

転出前後の割合の変化をみると、「ひとり暮らし」は転出前 3.0%から転出後 18.3%、「夫婦のみ」は転出前 13.9%から転出後 41.3%、「二世帯同居（親と子）」は転出前 69.6%から転出後 35.7%となっており、「二世帯同居」だった方が、転出後に「ひとり暮らし」、「夫婦のみ」に変化している状況が見受けられる。

年齢区別にみると、「20～24 歳」、「25～29 歳」では、転出後に「一人暮らし」及び「夫婦」の世帯の割合の伸びが顕著であるが、ほかの年齢区分でも、一人暮らし、夫婦の割合が伸びて、二世帯同居の割合が減少する傾向がみられる。

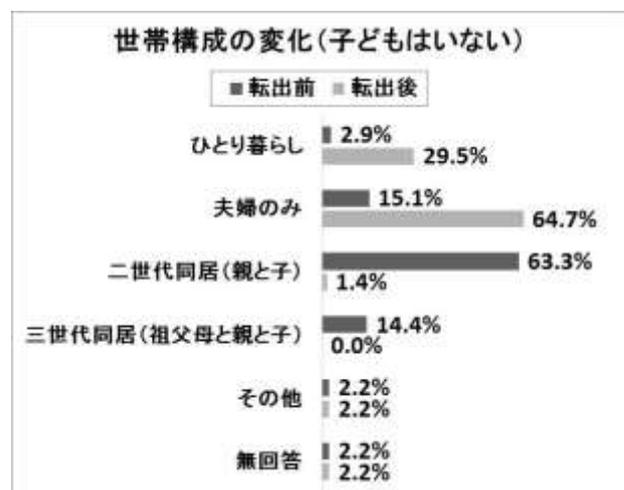
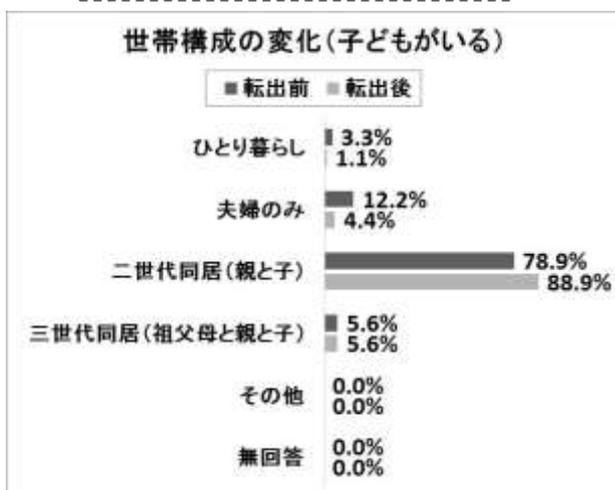
子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「二世帯同居（親と子）」の割合が転出前 78.9%から転出後 88.9%と転出前後で高い値を示している。

「子どもはいない」方は、「一人暮らし」転出前 2.9%から転出後 29.5%、「夫婦のみ」転出前 15.1%から転出後 64.7%の割合が高まり、「二世帯同居（親と子）」転出前 63.3%から転出後 1.4%、「三世帯同居（祖父母と親と子）」転出前 14.4%から転出後 0.0%となっており、それぞれ減少している。

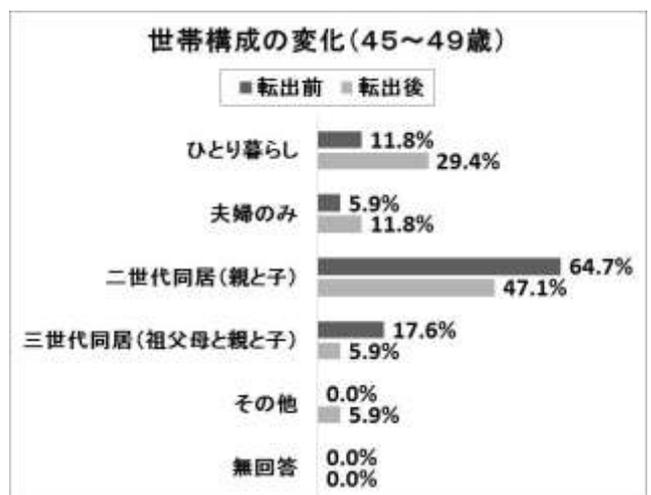
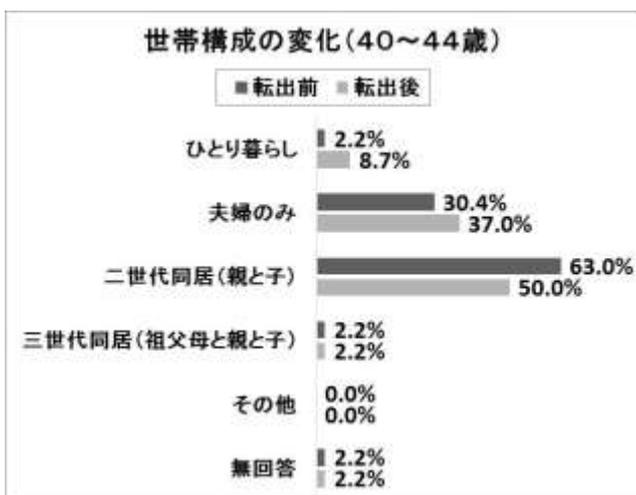
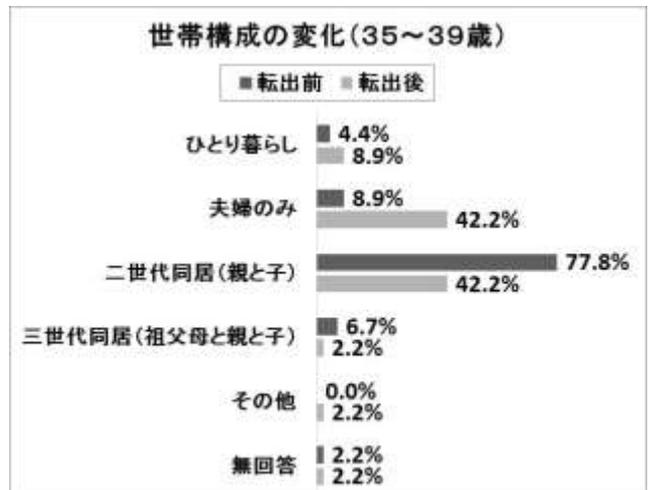
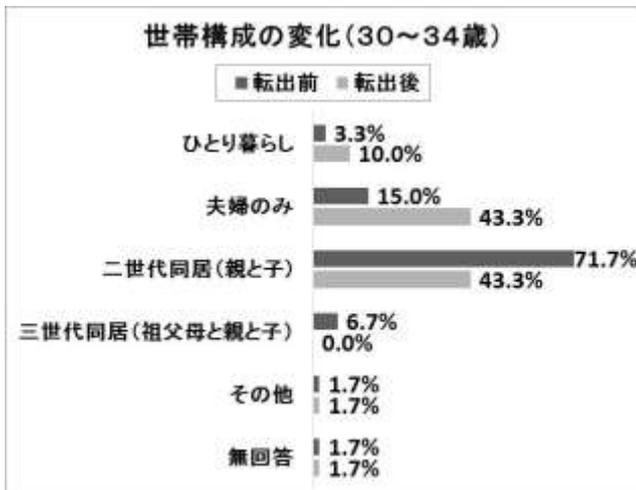
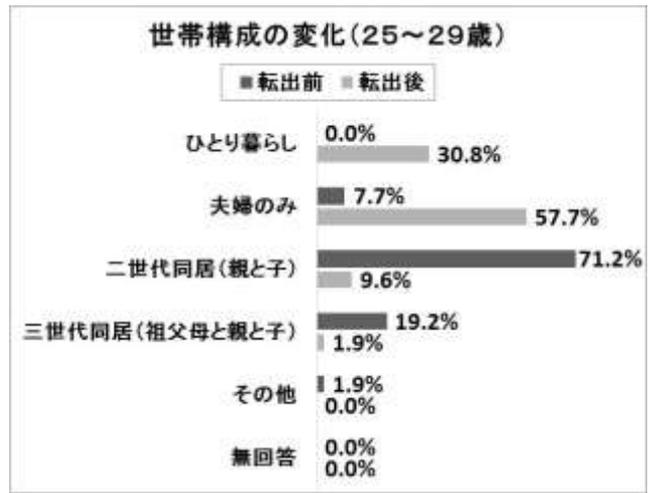
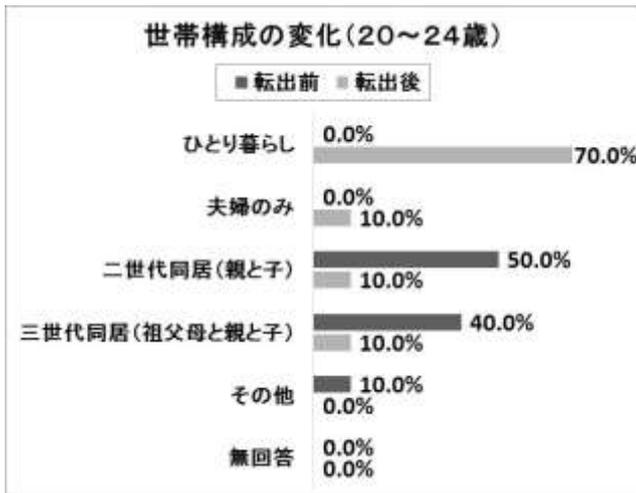
世帯構成	集計		割合	
	転出前	転出後	転出前	転出後
ひとり暮らし	7	42	3.0%	18.3%
夫婦のみ	32	95	13.9%	41.3%
二世帯同居(親と子)	160	82	69.6%	35.7%
三世帯同居(祖父母と親と子)	25	5	10.9%	2.2%
その他	3	3	1.3%	1.3%
無回答	3	3	1.3%	1.3%
計	230	230	100.0%	100.0%



子ども有無別
子ども有(N=90)、子ども無(N=139)



【2】転出者アンケート調査



年齢区分別

20～24歳(N=10) 24～29歳(N=52) 30～34歳(N=60)

35～39歳(N=45) 40～44歳(N=46) 45～49歳(N=17)

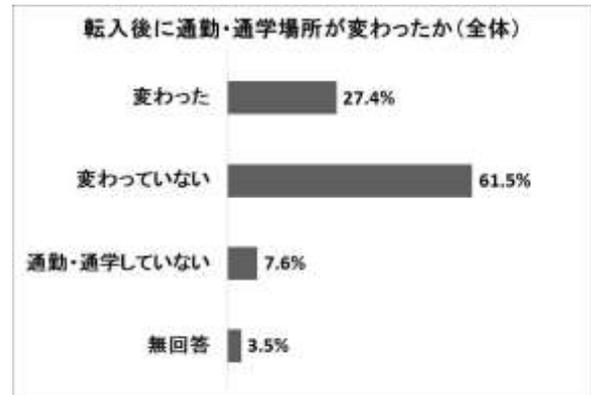
【2】転出者アンケート調査

問19 転出前と現在で通勤・通学場所が変わったか

(N=317 以降全員が回答) ※主たる家計を支える方の通勤・通学場所

全体では、通勤・通学場所が「変わった」27.4% (N=87)、「変わっていない」61.5% (N=195)、「通勤・通学していない」7.6%(N=24)となっている。

設問	選択肢	総数	割合
通勤・通学場所の変更の有無	変わった	87	27.4%
	変わっていない	195	61.5%
	通勤・通学していない	24	7.6%
	無回答	11	3.5%
	計	317	100.0%



通勤・通学場所が「変わった」方の転出前の通勤・通学場所は神奈川県内が82.8%、東京都内が11.5%であり、市区町村別では、平塚市が42.5%で最も高く、次いで横浜市9.2%、厚木市5.7%と続いている。また、転出後の通勤・通学場所は、神奈川県内が50.6%、東京都内が40.2%であり、転出前と比べ、東京都内への通勤・通学の割合が高まっている。市区町村別では、横浜市が16.1%と最も高く、以下、川崎市11.5%、伊勢原市及び東京都港区5.7%、東京都新宿区4.6%と続いている。平塚市内は0となっている。

《通勤・通学場所が「変わった」方(N=87)》

・転出前の通勤・通学場所(上位抜粋)

転出前の勤務地	割合
神奈川県	72 82.8%
東京都	10 11.5%
無回答	5 5.7%
その他	0 0.0%
計	87

順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	37	42.5%
2	横浜市	8	9.2%
3	無回答	6	6.9%
4	厚木市	5	5.7%
5	相模原市	2	2.3%
5	藤沢市	2	2.3%
5	小田原市	2	2.3%
5	茅ヶ崎市	2	2.3%
5	秦野市	2	2.3%
5	大和市	2	2.3%
5	伊勢原市	2	2.3%
5	海老名市	2	2.3%
5	千代田区	2	2.3%

・転出後の通勤・通学場所(上位抜粋)

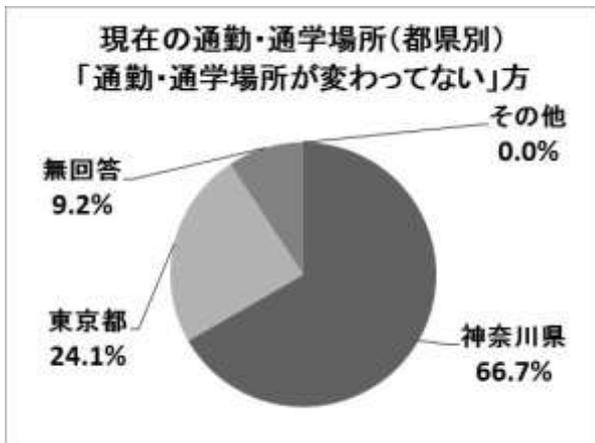
順位	市区町村	総数	割合
1	横浜市	14	16.1%
2	川崎市	10	11.5%
3	伊勢原市	5	5.7%
3	港区	5	5.7%
5	新宿区	4	4.6%
5	その他	4	4.6%
5	無回答	4	4.6%
8	千代田区	3	3.4%
8	渋谷区	3	3.4%
10	藤沢市	2	2.3%
10	小田原市	2	2.3%
10	茅ヶ崎市	2	2.3%
10	厚木市	2	2.3%

通勤・通学場所が「変わっていない」方の通勤・通学場所をみると、神奈川県内が66.7%、東京都内が24.1%であり、市区町村別でみると、平塚市が最も高く19.5%、次いで横浜市16.4%、藤沢市5.1%、東京都港区4.6%、厚木市4.1%、東京都新宿区、茅ヶ崎市、川崎市が3.1%と続いている。

【2】転出者アンケート調査

《転出前後で通勤・通学場所が「変わってない」方 (N=195)》

・「通勤・通学場所」(都県別)



・「通勤・通学場所」(上位抜粋)

順位	市区町村	総数	割合
1	平塚市	38	19.5%
2	横浜市	32	16.4%
3	無回答	18	9.2%
4	藤沢市	10	5.1%
5	港区	9	4.6%
6	厚木市	8	4.1%
7	新宿区	6	3.1%
7	茅ヶ崎市	6	3.1%
7	川崎市	6	3.1%
10	秦野市	5	2.6%
10	中央区	5	2.6%
10	渋谷区	5	2.6%
13	大磯町	4	2.1%

転出前後で通勤・通学場所が「変わっていない方」(家族の持ち家や社宅に転出した方除く)で、東京都内に通勤している方(N=59)の転出先は23区内が49.2%を占め、横浜市25.4%、川崎市10.2%となっている。また、本市内に通勤・通学している方(N=31)の転出先は、茅ヶ崎市が19.4%で最も高く、藤沢市、伊勢原市が12.9%と続いている。このことから、東京都内に通勤・通学している方は東京都内や横浜市方面の通勤・通学場所に近い場所に、また本市内に通勤・通学している方は、近隣の市町に転出をしたことがわかる。

《転出前後で通勤・通学場所が「変わってない」方、東京都内に通勤・通学 (N=59)》

・「通勤・通学場所」

現在の通勤・通学場所	総数	割合
東京都	23区	53 89.8%
	その他	5 8.5%
	無回答	1 1.7%
計	59	100.0%

・「転出先」

転出先の市区町村	総数	割合
東京都	23区	29 49.2%
	その他	2 3.4%
	無回答	0 0.0%
神奈川県	横浜市	15 25.4%
	川崎市	6 10.2%
	その他	5 8.5%
	無回答	1 1.7%
無回答	1	1.7%
計	59	100.0%

《転出前後で通勤・通学場所が「変わってない」方、本市内に通勤・通学 (N=31)》

・「通勤・通学場所」

現在の通勤・通学場所	総数	割合
神奈川県 平塚市	31	100.0%
計	31	100.0%

・「転出先」

転出先の市区町村	総数	割合
神奈川県	茅ヶ崎市	6 19.4%
	藤沢市	4 12.9%
	伊勢原市	4 12.9%
	横浜市	3 9.7%
	秦野市	2 6.5%
	厚木市	2 6.5%
	大磯町	2 6.5%
	その他	7 22.6%
無回答	1	3.2%
計	31	100.0%

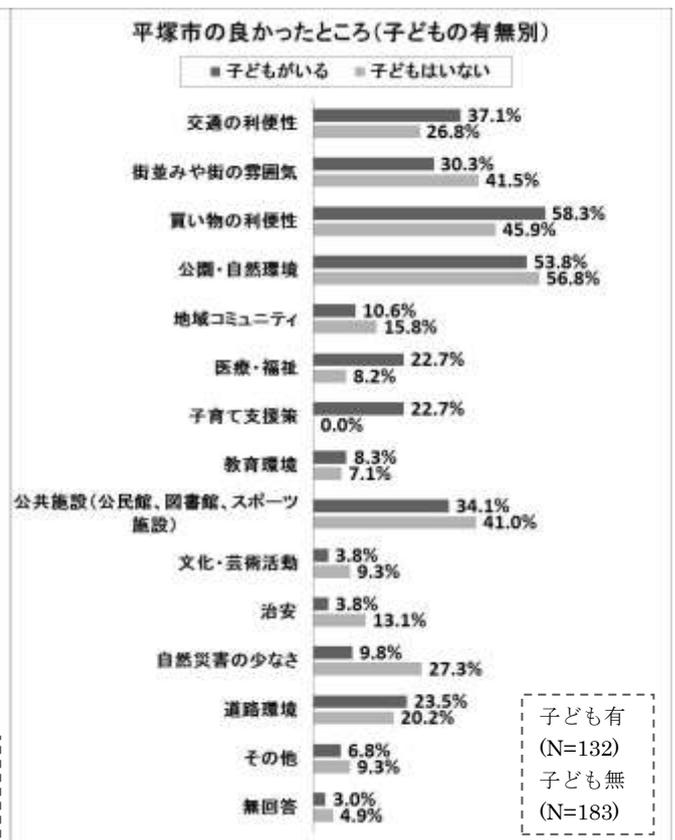
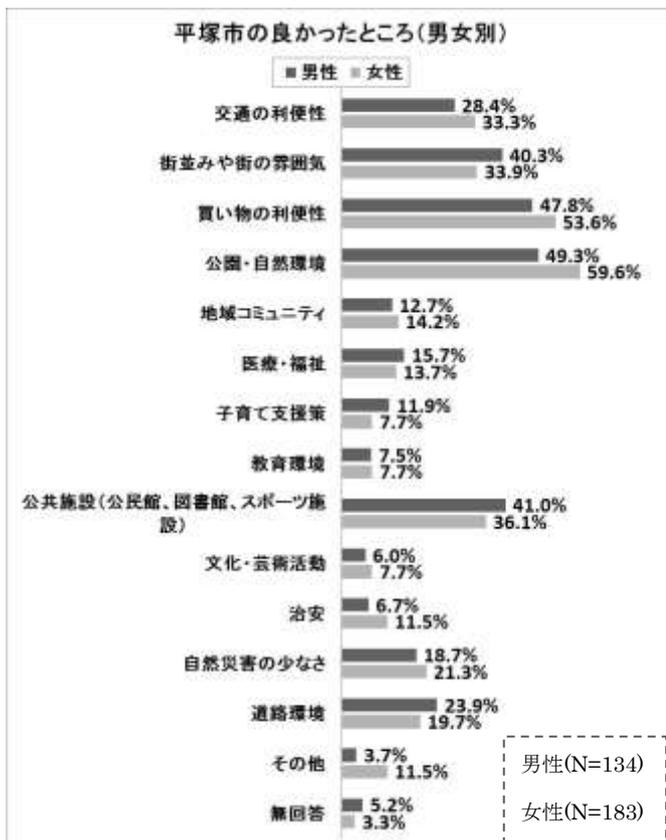
【2】 転出者アンケート調査

問20 平塚市に住んでいて良かったところ (※複数回答可)

全体でみると「公園・自然環境」が55.2%で最も高く、以下、「買い物の利便性」51.1%、「公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）」38.2%、「街並みや街の雰囲気」36.6%、「交通の利便性」31.2%と続いている。

「公園・自然環境」は、男女別、年齢区分別、子どもの有無別のいずれにおいても高い割合を示している。

	印象(良かったところ)	総数	割合
印象(良かったところ)	交通の利便性	99	31.2%
	街並みや街の雰囲気	116	36.6%
	買い物の利便性	162	51.1%
	公園・自然環境	175	55.2%
	地域コミュニティ	43	13.6%
	医療・福祉	46	14.5%
	子育て支援策	30	9.5%
	教育環境	24	7.6%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	121	38.2%
	文化・芸術活動	22	6.9%
	治安	30	9.5%
	自然災害の少なさ	64	20.2%
	道路環境	68	21.5%
	その他	26	8.2%
	無回答	13	4.1%
	計	1039	-
	回答者数	317	



【2】 転出者アンケート調査

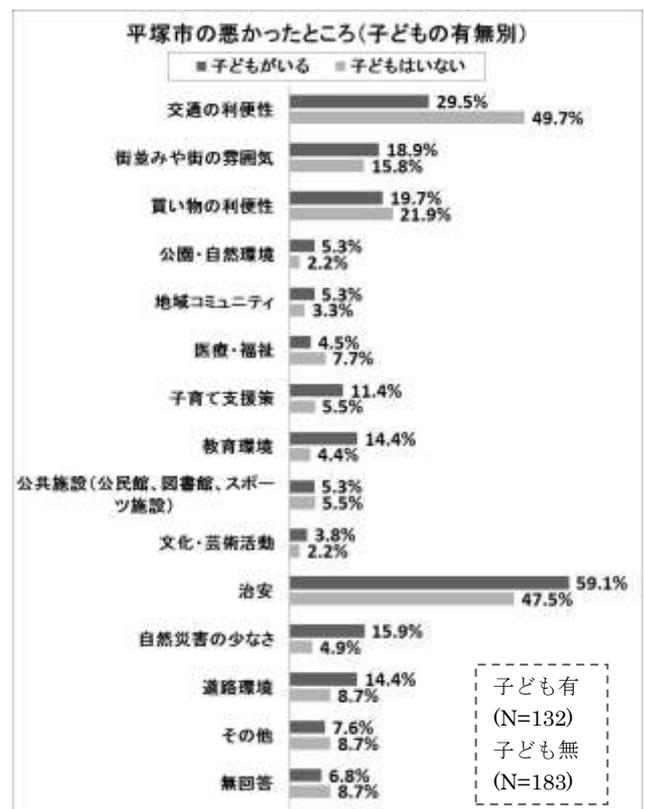
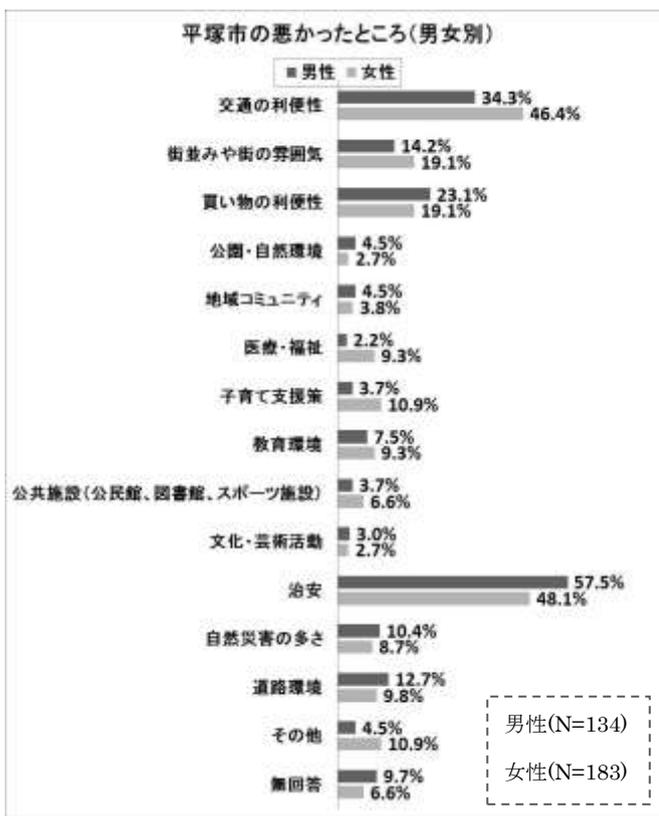
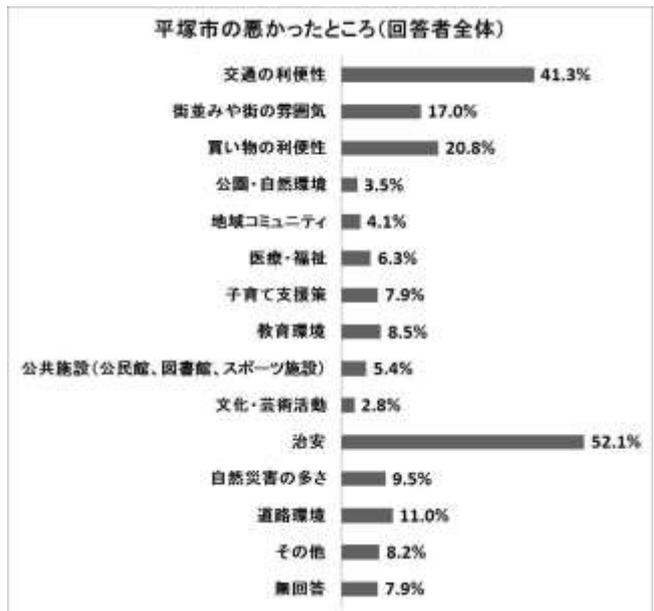
問20 平塚市に住んでいて悪かったところ (※複数回答可)

全体でみると「治安」が52.1%で最も高く、以下、「交通の利便性」41.3%、「買い物の利便性」20.8%、「街並みや街の雰囲気」17.0%と続いている。

男女別にみると、「治安」を選択した割合は、男性が57.5%、女性48.1%となっており、男性の方が女性よりも、平塚市の治安が悪いと感じていることがわかる。

子どもの有無別では、「子どもがいる」方は、「治安」が悪いと59.1%が感じており他の選択肢と比べて非常に高い割合となっている。「子どもはいない」方は「治安」が47.5%と高い割合だが、それ以上に「交通の利便性」49.7%と高い割合であった。

	印象(悪かったところ)	総数	割合
印象(悪かったところ)	交通の利便性	131	41.3%
	街並みや街の雰囲気	54	17.0%
	買い物の利便性	66	20.8%
	公園・自然環境	11	3.5%
	地域コミュニティ	13	4.1%
	医療・福祉	20	6.3%
	子育て支援策	25	7.9%
	教育環境	27	8.5%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	17	5.4%
	文化・芸術活動	9	2.8%
	治安	165	52.1%
	自然災害の少なさ	30	9.5%
	道路環境	35	11.0%
	その他	26	8.2%
	無回答	25	7.9%
計	654	-	
	回答者数	317	



【2】 転出者アンケート調査

問21 問20で答えた平塚市の良かったところ

問20の「良かったところ」で高い割合だった「公園・自然環境」については、海・山・川などの自然の多さや、また総合公園を評価する意見が多かった。「買い物の利便性」については、平塚駅ビルなどの買い物環境や、スーパー、大型量販店などが身近にあり、日常必要なものが何でも揃うことを評価する意見が多かった。「公共施設」については、図書館、総合公園のスポーツ施設、美術館などが充実しているという意見が多かった。

問20選択肢	良かったところ	意見数
1	交通の利便性	35
2	街並みや街の雰囲気	52
3	買い物の利便性	69
4	公園・自然環境	89
5	地域コミュニティ	8
6	医療・福祉	13
7	子育て支援策	14
8	教育環境	11
9	公共施設	32
10	文化・芸術活動	5
11	治安	6
12	自然災害の少なさ	7
13	道路環境	23
14	その他	26
-	該当なし	43
	意見数	433

問22 問20で答えた平塚市の悪かったところ

問20の「悪かったところ」で高い割合だった「治安」については、マスコミによる事件報道や、自転車の盗難、街灯の少なさ、不審者の出没などの意見が見られた。「交通の利便性」については、駅、東海道線が1つしかないことで、駅へのアクセスや、電車が止まった時に代替手段が取りづらいことの不便性、また、バスの定時性がないことや、本数の少なさ、駅までのアクセスにバスを使うことの不便さなどの意見が多かった。

問20選択肢	悪かったところ	意見数
1	交通の利便性	75
2	街並みや街の雰囲気	29
3	買い物の利便性	26
4	公園・自然環境	6
5	地域コミュニティ	0
6	医療・福祉	4
7	子育て支援策	6
8	教育環境	7
9	公共施設	6
10	文化・芸術活動	1
11	治安	90
12	自然災害の発生	10
13	道路環境	19
14	その他	25
-	該当なし	36
	意見数	340